

本校は文部科学省より3回目のSSHの指定を受け、本年度で4年目を迎えます。本年度初めの今号では、SSH事業の概要について紹介していきます。

Q SSHとは何ですか？

A SSHは、スーパーサイエンスハイスクール（以下、SSHと略します）の頭文字で、文部科学省による研究開発指定校です。未来を担う科学技術系人材を育てることをねらいとして、理数系教育の充実をはかる取り組みです。

全国で約200校がSSHに指定されており、これは全国の高等学校の4%程度で、日本有数の進学校などが指定を受けています。

本校は、現在3回目の指定を受けており、「未来に果敢に挑戦できる科学技術系人材の育成」を研究開発課題として、平成29年度、令和3年度まで5年間取り組めます。

Q 前回の時と今回のSSH指定での違いは？

A 今回のSSH指定においても、進学実績を上げながら、「科学の甲子園」全国大会出場（県大会優勝）や日本学生科学賞山形県予選最優秀賞、全国高等学校総合文化祭自然科学部門出場（県探究活動課題研究発表会最優秀賞）など、前回の指定から引き続き活動の成果が目に見えて出ています。また、海外の高校と姉妹校になることで、国際的な連携もさらに発展しています。これまでのSSHの取組の骨組みはそのままに、これからの時代の新しい評価方法を研究していきます。この取組は、

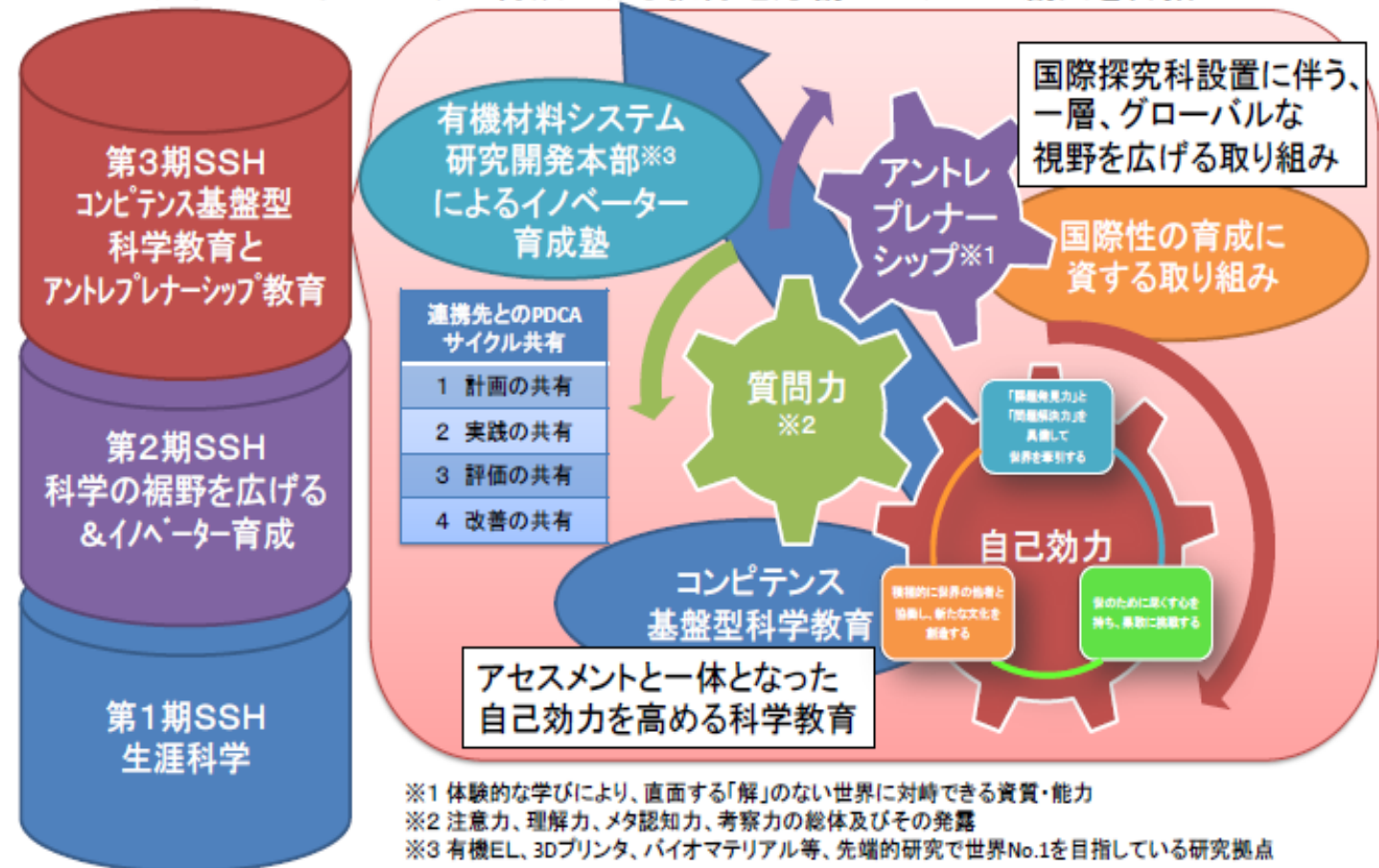
今度の新テスト（大学入試共通テスト）に対応することはもちろん、その先の新しい学習指導要領改訂も見据えた取組になると確信しています。左図は、今回の取組の概念図です。

Q 入学してからのSSHとしての取り組みの概要はどのようなものですか？

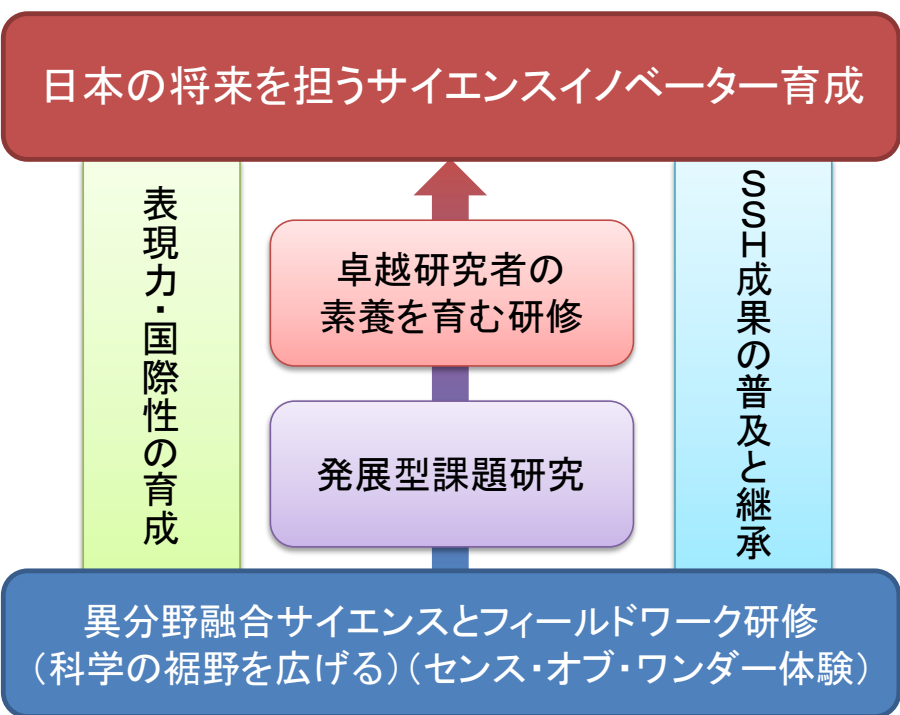
A まず、1年生全員を対象として学校設定教科・科目『異分野融合サイエンス』を展開していきます。これは、全学科が協力し、様々な学問領域を融合させ、大学や研究機関等と連携を図りながら体験的な実験講座や演習等を行っていくものです。低学年の段階で様々な分野を「自然科学」の切り口で学ぶことにより、自然科学に対する興味・関心が高まる取り組みとなります。さらに、これら低学年

未来に果敢に挑戦できる科学技術系人材の育成

～サイエンスイノベーター育成による教育地方創生モデルの創出を目指して～



※1 体験的な学びにより、直面する「解」のない世界に対峙できる資質・能力
 ※2 注意力、理解力、メタ認知力、考察力の総体及びその発露
 ※3 有機EL、3Dプリンタ、バイオマテリアル等、先端的研究で世界No.1を目指している研究拠点



時の学びによって、科学の面白さや奥深さに気づき、そのような学問をさらに深く学んでいきたいという生徒に対しては、2年生以降から卓越研究者の素養を育む研修等に取り組んでいきます。日本の未来を担うサイエンスイノベーター（卓越した研究者）になるためには、豊かな表現力や国際性が備わっている必要があるため、国語科や英語科と協力しながら、海外研修も実施しています。

Q SSHがわかりやすくなるような、具体的取り組みを教えてください。

A 山形大学工学部と連携した様々な取り組みがあります。例えば、スーパーサイエンスリサーチです。高等教育機関と連携することで、課題研究の質的向上を目指しています。そのために、山形大学工学部に在籍している海外の留学生が毎週ティーチングアシスタントとして来校し、英語で生徒の研究を支援してくれています。

他にも様々な校外研修活動があります。関西方面へのサイエンス研修では全国SSH生徒研究発表会に参加しながらスーパーコンピュータ「京」等の科学関連施設研修を行っています。海外研修では平成27年3月に姉妹校協定を締結した国立台湾師範大学附属高級中学へ訪問し、お互いの研究内容を英語で発表する機会を設けています。

